

第11章 自然環境

1. 概要

本市は県北部中央の北総台地に位置しており、その地形は東部及び南部の台地と、北部及び西部の平地に大別されます。台地は畑あるいは森林で、その周辺部はほとんどが森林でふちどられています。根木名川や印旛沼周辺の低地には水田が広がり、温暖な気候と豊かな自然に恵まれています。

しかしながら、近年、急激な都市化により身近な自然が減少しつつあります。

自然は私たちの生活に潤いを与えてくれるばかりでなく、環境の保全、水資源のかん養を促し、野生生物の生息場所となるなど、地球上の全ての生命を育む母胎です。市民が豊かな自然の中で水や緑に触れ合うことができるよう、自然環境の保全と創造に努めています。

2. 自然環境保全地域

千葉県では千葉県自然環境保全条例に基づき、自然環境保全地域、郷土環境保全地域、緑地環境保全地域の3種類の保全地域を指定しています。本市では、公津地区の麻賀多神社の森、下総地区の小御門神社の森、大栄地区の大慈恩寺の森の3地域が、郷土環境保全地域として指定されています。

表 11-1 保全地域の指定状況

地域名		面積(ha)	指定年月日
郷土環境 保全地域	麻賀多神社の森郷土環境保全地域	2.80	昭和54年 3月30日
	小御門神社の森郷土環境保全地域	1.81	昭和54年 4月 3日
	大慈恩寺の森郷土環境保全地域	3.01	平成 2年 3月30日

3. 動植物生息調査

本市では、平成5年度から6年度にかけて、市内の主要な水辺周辺の動植物生息調査（「第1次水辺編」）を、また平成7年度から8年度にかけては、市内陸域の動植物生息調査（「第1次陸域編」）を実施しました。その後、第1次動植物生息調査と同じ地点で、平成14年度に「第2次水辺編」を、平成15年度に「第2次陸域編」を実施しました。そして平成16年度には、今までの動植物生息調査で得られた自然環境データを基に、自然環境の変化や地域別自然環境評価等の整理・解析を行いました。市内の河川及び池沼の周辺では、護岸工事等の影響を受けている地域が見受けられますが、比較的動植物の確認種数が多く、生物の多様性が認められました。

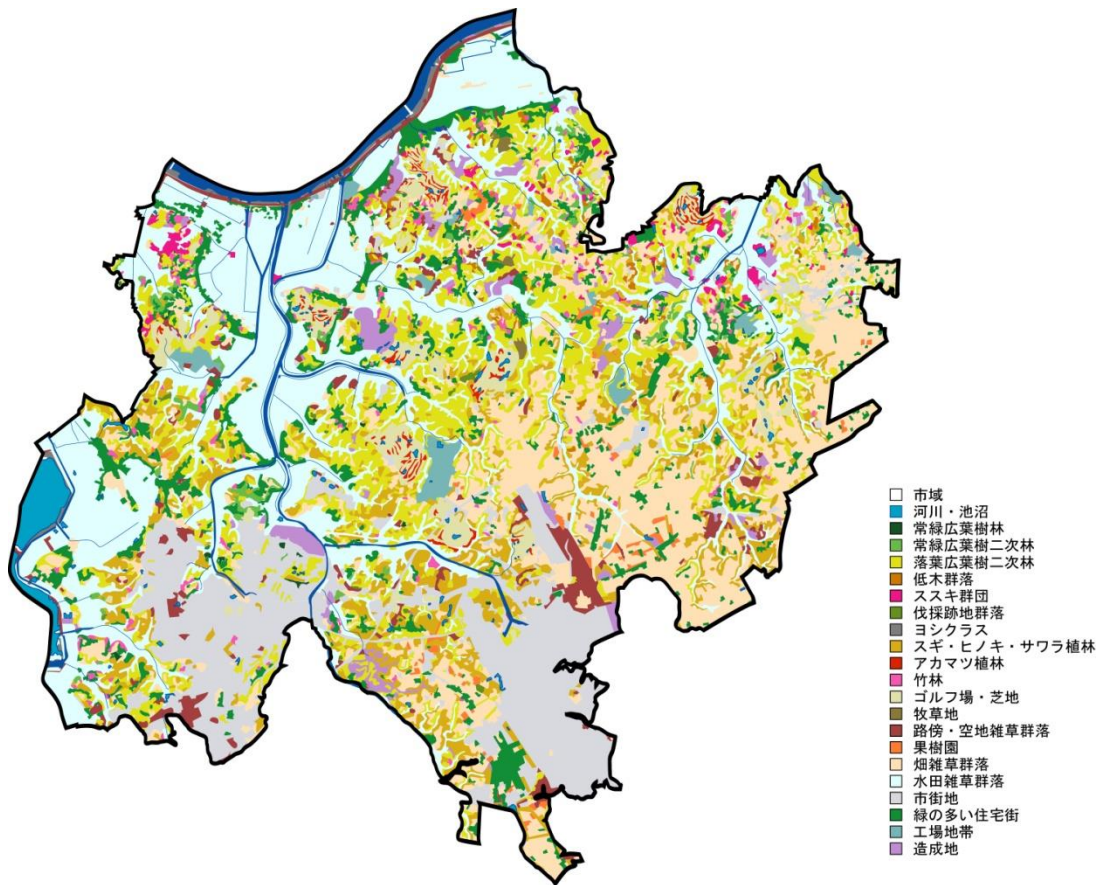
また大栄地域においては、平成元年から平成8年までの8年間にわたり調査を実施しました。

(1) 植生

本市の気候帯は暖温帯で、森林植生帯ではヤブツバキクラス域自然植生に属しています。

利根川、根本名川、大須賀川、印旛沼周辺の平地には田園が広がり、植生区分としては水田雑草群落を大部分を占めています。また河川流域の谷津斜面は、スギ・ヒノキの植林や、シイ・カシ林、コナラ等の斜面林が多く分布しています。

中央部から南東部にかけての台地部分は畑として利用されている地域が多く、畑地雑草群落が広がっています。南西部には成田ニュータウンをはじめとする市街地が広がっており、市内各地には古くからある集落が緑の多い住宅地として点在しています。



※ 第6回・第7回 自然環境保全基礎調査（環境省自然環境局生物多様性センター）

図 11-1 成田市の植生図

(2) 地域別特性

動植物生息調査の結果、本市中心部に位置する尾羽根川流域、荒海川流域では、他の調査区域に比べ確認された種数が多く、豊かな自然環境が存在していると考えられます。なお、尾羽根川流域は下総地域南部、大栄地域西部と隣接しており、周辺地域にも同様の自然環境が存在していると考えられます。

成田空港周辺域は、その多くを成田国際空港が占めており、コンクリート等で覆われている部分が多いため確認種数が少なくなっています。

河川、池沼の周辺では護岸等の人為的影響を受けた区域が多いものの、植物種、動物種の出現数は多く、種の多様化が認められます。

また本調査においては湧水地点の調査も行い、印旛沼と成田ニュータウンに挟まれた八代地区に、湧水地点が多く分布することが確認されています。

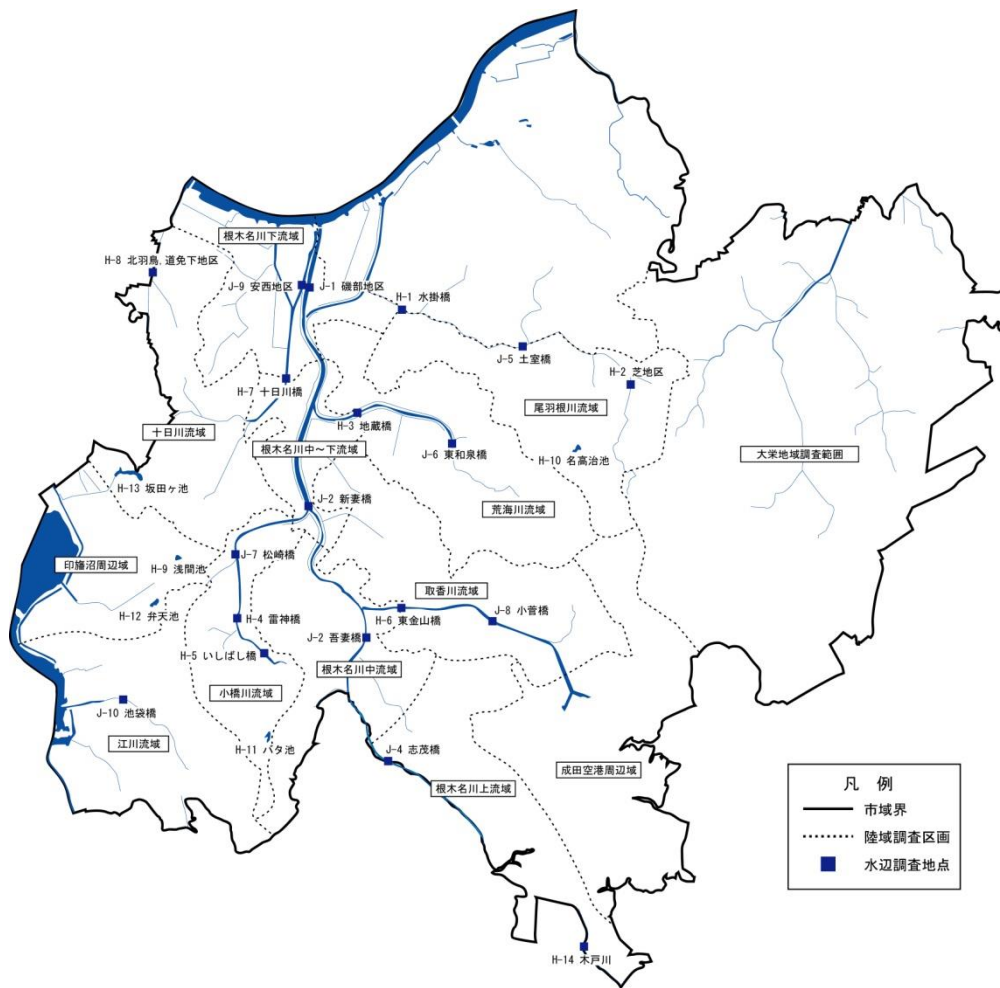


図 11-2 調査区画・調査地点図

表 11-2 動植物確認種数一覧

区分	調査地点 調査区域	番号	植 物		哺乳類		鳥 類		両生類 爬虫類		昆虫類		底生生物		魚 類	
			1次	2次	1次	2次	1次	2次	1次	2次	1次	2次	1次	2次	1次	2次
水 辺	根木名川	J-1	93	52	—	—	32	34	2	4	54	60	3	4	6	3
		J-2	126	95	—	—	28	33	4	1	70	97	1	1	3	3
		J-3	125	71	—	—	29	34	4	3	60	75	10	4	6	8
		J-4	62	79	—	—	24	26	5	4	80	118	7	3	5	4
	尾羽根川	J-5	68	41	—	—	21	33	2	4	47	91	17	4	8	7
	荒海川	J-6	69	59	—	—	22	33	1	5	67	98	9	1	4	5
	小橋川	J-7	92	83	—	—	31	34	3	2	78	105	5	2	6	3
	取香川	J-8	94	91	—	—	23	40	5	4	75	147	1	1	6	3
	十日川	J-9	83	46	—	—	43	31	4	7	58	56	4	3	4	9
	江川	J-10	71	73	—	—	29	32	3	2	86	72	9	4	7	3
	尾羽根川	H-1	28	36	—	—	—	21	0	1	7	4	8	0	12	13
		H-2	37	46	—	—	—	24	0	3	7	4	13	6	5	4
	荒海川	H-3	65	55	—	—	—	25	0	2	7	4	13	1	11	10
	小橋川	H-4	11	41	—	—	—	20	2	3	8	6	13	2	6	5
		H-5	35	45	—	—	—	23	0	3	5	4	5	3	5	6
	取香川	H-6	35	46	—	—	—	22	0	2	7	2	5	3	6	6
	十日川	H-7	47	65	—	—	—	26	0	4	7	5	4	0	9	6
	竜台川	H-8	0	34	—	—	—	30	0	2	5	5	10	2	9	0
	浅間池	H-9	5	91	—	—	29	25	3	6	12	16	1	2	6	7
	名高治池	H-10	8	42	—	—	21	26	2	2	13	12	8	5	6	4
	バタ池	H-11	1	103	—	—	25	22	2	4	10	6	1	1	3	3
	弁天池	H-12	—	89	—	—	16	17	0	4	—	6	0	0	0	1
	坂田ヶ池	H-13	—	83	—	—	39	34	2	4	16	13	0	3	0	4
	木戸川	H-14	—	38	—	—	—	22	0	2	—	3	0	2	0	0
	その他		—	—	—	—	14	—	—	—	4	1	—	—	—	—
	計		275	328	—	—	87	81	14	13	240	350	35	22	32	25
陸 域	根木名川下流域		82	97	4	1	42	42	1	5	97	118	—	—	—	—
	根木名川中～下流域		17	20	2	1	36	36	2	3	180	200	—	—	—	—
	根木名川中流域		43	46	2	1	28	27	0	3	208	143	—	—	—	—
	根木名川上流域		74	76	2	3	32	29	3	8	228	253	—	—	—	—
	尾羽根川流域		148	197	3	3	30	32	3	9	226	380	—	—	—	—
	荒海川流域		115	114	5	1	26	32	2	5	227	475	—	—	—	—
	取香川流域		106	108	4	1	33	40	2	7	238	227	—	—	—	—
	成田空港周辺域		18	27	2	1	33	30	1	1	213	199	—	—	—	—
	十日川流域		121	107	6	4	33	33	3	4	239	199	—	—	—	—
	小橋川流域		93	30	2	3	32	35	2	2	153	213	—	—	—	—
	印旛沼周辺域		19	37	3	2	54	47	2	5	91	175	—	—	—	—
	江川流域		124	96	4	2	40	38	1	5	178	195	—	—	—	—
	計		339	413	7	8	88	85	9	14	795	1,117	—	—	—	—
成田地域確認種数		649		10		119		18		1,357		47		34		
大栄地域確認種数		813		11		84		15		483		—		24		

※ 「—」は調査を実施していない地点。

(3) 注目種

動植物生息調査において確認された注目種については表 11-3 及び表 11-4 に示すとおりです。

環境省の評価基準（環境省レッドリスト）における注目種は、植物 20 種、鳥類 15 種、昆虫類 14 種、両生類 2 種、魚類・貝類 14 種が確認されています。また、この他に、評価するだけの情報が不足している種（「情報不足 DD」）として、ケリ（鳥類）、コガムシ（昆虫類）、スギハラベッコウ（昆虫）、フルカワフトハキリバチ（昆虫）、オオサカアオゴミムシ（昆虫）、モンズズメバチ（昆虫）、ドジョウ（魚類）、ヒラマキミズマイマイ（貝類）が該当しています。

地域的希少性を有すると判断される千葉県の評価基準（千葉県レッドリスト）における注目種は、植物 51 種、哺乳類 7 種、鳥類 72 種、両生類・爬虫類 13 種、昆虫類 56 種、甲殻類 1 種、貝類 3 種、魚類 10 種が確認されています。

表 11-3 成田市の注目種（環境省評価基準）

分類群	種数	絶滅危惧 I A 類 (CR)	絶滅危惧 I B 類 (EN)	絶滅危惧 II 類 (VU)	準絶滅危惧 (NT)
植 物	20 種	—	アキノハハコグサ オオアカウキクサ	キキョウ キンラン クマガイソウ サンショウモ ヒメミクリ ヒメビシ ミズキンバイ ミシマサイコ	アギナシ エビネ カワヂシャ カザグルマ シラン タコノアシ ニッケイ フジバカマ ホソバヌタデ ミズニラ
鳥 類	15 種	—	サンカノゴイ チュウヒ	サシバ タカブシギ タマシギ ツルシギ ハヤブサ コアジサシ コジュリン	オオタカ チュウサギ オオジシギ ヒクイナ ミサゴ ヨシゴイ
昆虫類	14 種	ベッコウトンボ	オオキトンボ オオセスジイトトンボ オオモノサシトンボ	ゲンゴロウ マルガタゲンゴロウ ミズスマシ	アオヤンマ ギンイチモンジセセリ オオミズスマシ ガムシ キイロサナエ ヤマトモンシデムシ シロホソバ
両生類	2 種	—	—	—	アカハライモリ トウキョウダルマガエル
魚 類 ・ 貝 類	14 種	ワタカ	タナゴ ツチフキ ホトケドジョウ ゲンゴロウブナ	ギバチ キンブナ スゴモロコ スナヤツメ ハス マシジミ メダカ	オオタニシ ヤマトシジミ

※ 環境省第 4 次レッドリスト(平成 24 年 8 月、平成 25 年 2 月)

表 11-4 成田市の注目種（千葉県評価基準）

分類群	種数	消息不明・絶滅生物 (X)	最重要保護生物 (A)	重要保護生物 (B)	要保護生物 (C)	一般保護生物 (D)
植 物	51 種	1 種	2 種	11 種	23 種	14 種
		オニイノデ	ヒメミクリ フクジュソウ	カタクリ キンガヤツリ コマツカサススキ ミズキンバイ ヤマエンゴサク アキノハハコグサ コタニワタリ フジキ クロウメモドキ アズマイチゲ ミヤマガマズミ		
哺乳類	7 種	—	—	1 種 アカギツネ（キツネか ら和名変更）*	2 種	4 種
鳥 類	72 種	—	18 種	10 種	26 種	18 種
			サンカノゴイ ヨシゴイ サシバ チュウヒ ヒクイナ タマシギ ケリ オオジシギ イソシギ コアジサシ アオバズク アマツバメ トラツグミ コサメビタキ キビタキ サンコウチョウ コジュリン コミミズク	チュウサギ ミサゴ オオタカ ハヤブサ バン コチドリ ツルシギ タカブシギ フクロウ キセキレイ		
両生類 爬虫類	13 種	—	3 種 アカハライモリ ツチガエル ニホンアカガエル	4 種 シロマダラ ジムグリ ニホントカゲ トウキョウダルマガエル	2 種	4 種
昆虫類	56 種	5 種	5 種	9 種	15 種	22 種
		ミヤマアカネ ゲンゴロウ ベッコウトンボ オオキトンボ コミドリイエバエ	ハルゼミ オオセスジイトトンボ オオモノサシトンボ オオクササキ フルカワフトハキリバチ	オオイトトンボ カトリヤンマ ヒメカマキリモドキ スゲハムシ ウキクサミズゾウムシ アオバセセリ ミヤマセセリ オオチャバネセセリ ヒオドシチョウ		
甲殻類	1 種	—	—	—	—	1 種
貝 類	3 種	—	1 種	2 種	—	—
			マシジミ	ヤマトシジミ ヒラマキミズマイマイ		
魚 類	10 種	—	2 種	4 種	2 種	2 種
			スナヤツメ タナゴ	ギバチ メダカ ナマズ カマツカ		

※ 千葉県レッドデータブック植物・菌類編(2009年改訂版)、動物編(2011年改訂版)、
追録第1号訂正版(平成23年3月)

* : 情報量が少なく、生息の確認が不明確なもの。

(4) 外来種

動植物生息調査において確認された外来種については表 11-5 に示すとおりです。

植物は、セイタカアワダチソウ、ブタクサ等、109 種の外来種が確認されています。

動物について、哺乳類はハクビシン 1 種、両生類・爬虫類はアカミミガメ、ウシガエルの 2 種、昆虫類はセイヨウミツバチ、アオマツムシ等 20 種、底生生物はアメリカザリガニ、サカマキガイの 2 種、魚類はオオクチバス、ソウギョ、ブルーギルの 3 種が外来種として確認されています。

また市内印旛沼周辺において、特定外来生物に指定されているカミツキガメが確認されています。

表 11-5 動植物生息調査で確認された外来種の状況

	確認種数	外来種数	外来種率(%)
植 物	649	109	16.8
哺 乳 類	10	1	10.0
鳥 類	119	—	—
両生類・爬虫類	18	2	11.1
昆 虫 類	1,357	20	1.5
底生生物	47	2	4.3
魚 類	34	3	8.8

※ 外来種の判断根拠としては「外来種ハンドブック（日本生態学会，2003 年）」を使用。